

## 大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（22）



### ～ 「自己肯定感を高める取り組み」～

石垣第二中学校 校長 友利 始夫

最近、様々な場面で取りざたされている「自己肯定感」。自らの在り方を積極的に評価できる感情、自らの価値や存在意義を肯定できる感情（ウィキペディア）と解釈され、「今の自分でいい」「自分のことが好き」と思える感覚のことを指しています。自分が他人からどう評価されているかではないということです。

今、この自己肯定感を高めることが学校現場に求められていますが、本市の児童生徒の自己肯定感、小中ともに全国より10%程度低いということが、全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙の結果から明らかにされました。

石垣市が推進する「勇気づけ教育」の骨子には、「勇気づけの『勇気』とは、命がけで何かに向かっていくような勇気ではなく、『困難を克服する力』、あと一歩前へ進む力として捉えます。具体的には、先が見えないけど、チャレンジしてみよう。壁は高いけど、努力すれば克服できる。一人では厳しくても協力すれば大きなことも成し遂げられる等の覚悟になります。この勇気がある人は、自己肯定感が高い人になります。自己肯定感の高い人は、自分自身でこの勇気づけができ、この判断や行動ができます。」とあります。

この自己肯定感が低いということは、自信がない（できない）→やる気が起きない（失敗が怖い）→やらない（あきらめ）→自信がない・・・という負のスパイラル連鎖がずっと続くということになり、子どもたちの「生きる力」を阻害する社会問題の一つになっていくわけです。

さらに、全国学力学習状況調査の平均正答率と生徒質問紙の「自己肯定感」の結果についてクロス集計を行なったところ、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた生徒よりも、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の方が成績も良い傾向がみられます。自己肯定感が高いほうが、学力も高いと言えるのではないのでしょうか。

以上のことから、

本校では、本市が推進する「勇気づけの教育」の具体的な視点を、日常的に「互いに認め合う取組」「互いに尊重し合う取組」とし、安心できる居場所づくりを行うとともに、「必要とされる・役に立つ」という協力・貢献・感謝の機会を通して自己肯定感を育てていくことにしました。

## 【本校の「生徒の自己肯定感を高める」実践事例】

### ○ 5つの方策に基づいた取り組み（一部抜粋）

#### 【方策1】質的授業改善（日常化する）

- 学習指導要領の全面实施に対応し、「指導と評価の一体化」を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を図り、生徒の考えを交流させ深める授業を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育む指導を実践する。

#### 【方策2】組織的共通実践（そろえる）

- 石垣市スタンダード（めあて・まとめ・振り返り）の確実な実施を図る。
- 二中授業スタイルによる学習規律の徹底を図る。
- 全学級統一レイアウト（教室内の掲示）や定期テスト様式の統一を図る。

#### 【方策3】発達の支援（支える）

- 石垣市教育委員会「勇気づけの教育」の実践を進める。（石垣市重点方策）
- ハイパーQ Uの実施と結果分析により、学級全体や個の生徒の発達状況の把握を行う。
- キャリアパスポートによるキャリア発達支援を行う。

#### 【方策4】学校組織マネジメント（見通す）

- 各学期末の学校評価（生徒・保護者・教職員）に基づいたPDCAの実施
- 学校評価とカリキュラムマネジメントとのリンク

#### 【方策5】学校連携地域連携（つなぐ）

- キャリアパスポートを活用した小中間の系統的・継続的な支援
- 校区内小学校と連携し、相互の授業参観や意見交換等を行い授業改善に生かす。

### ○ 生徒会活動の充実（生徒総会資料から一部抜粋）

#### 本年度の活動方針

生徒会として目指す学校像は、「個性を尊重し、互いに磨き合う学校」です。そのためには、全生徒の意識を変える必要があります。生徒一人一人が互いに協力し合い、全校生徒で行動を続けることが大切です。そこで、今年度の生徒会活動テーマを「礼儀・協働・継続」と設定しました。挨拶や身なり、言葉遣いなど人としての基礎となる「礼儀」を大切にしながらも、ともに助け合い、協力して一つのことに向かって「協働」し、二中の校訓である「継続は力なり」のように一人一人がそれぞれの活動に責任を持ってやり遂げる生徒が増えれば、二中はさらに盛り上がると思います。生徒一人一人が生徒会会員であるという意識を持ち、各行事や学校生活などで積極的に行動し、多くの場面で活躍してほしいという意味が込められています。何事にも「礼儀・協働・継続」を意識し、全力で取り組むことができる二中を目指します。